

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

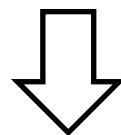
- 1 事業化にいたる背景
- 2 アーカイブ化手法の大枠

文化学園大学 和装文化研究所

田中 直人

1 事業化にいたる背景

各種資料のアーカイブ化とは
什么样的文脈から、何を目指すものか

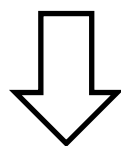


「文化芸術の振興に関する基本的な方針」

国および文化庁の考える
アーカイブ化事業の位置付けが示される

文化芸術の振興に関する基本的な方針
－文化芸術資源で未来をつくる－
(第4次基本方針)

※平成27年5月22日閣議決定
(◆文化庁HP 2017年1月5日参照)



重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進
において
「文化芸術資源のアーカイブ化」に言及

1 事業化にいたる背景

◆重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進

伝統文化から現代の文化芸術活動に至る我が国の多彩な文化芸術を積極的に海外発信するとともに、文化芸術各分野における国際文化交流を推進することにより、文化芸術水準の向上を図るとともに、我が国に対するイメージの向上や諸外国との相互理解の促進に貢献する。

（ ◆文化庁ＨＰ 2017年1月5日参照）

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

1 事業化にいたる背景

- 貴重な各種文化芸術資源を継承し、次代の文化芸術創造の基盤となる知的インフラを構築するため、映画、舞台芸術、アニメ、マンガ、ゲーム、デザイン、写真、建築、文化財等の文化資産及びこれらの関連資料等の収集・保存及びデジタルアーカイブ化等を促進するとともに、国立国会図書館等の関係機関と連携しつつ分野横断的整備を検討する。特に、メディア芸術について、関連の文化施設や大学等の連携・協力を推進することにより、情報拠点を構築し、我が国のメディア芸術を広く海外に発信する。

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

1 事業化にいたる背景

要約すれば・・

目的

文化芸術資源を継承し、次代の文化芸術創造の基盤となる
知的インフラを構築する

手段

A：文化芸術資源とその関連資料の収集と保存

B：同資料のデジタルアーカイブ化の促進

C：分野横断的な整備に関する検討

※とりわけ“メディア芸術”については関連施設や大学の
連携・協力を推進しつつ情報拠点を構築し、我が国の
メディア芸術を広く海外に発信する。

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

1 事業化にいたる背景

「メディア芸術デジタルアーカイブ事業」

対象：マンガ、アニメーション、ゲーム、メディアアートの4分野

内容：①全体像（作品情報、所蔵情報）の調査
②作品のデジタル化に資する事例検証

成果：「メディア芸術データベース（開発版）」の公開
※内容は随時更新・追加される予定

（◆文化庁HP 2017年1月5日参照）

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

1 事業化にいたる背景

◆ 公募要領にて指示された3つの活動

- ① 所蔵施設とのネットワークの構築
- ② 服飾分野史料のアーカイブ化手法の検討
- ③ DBの管理・運用・利活用

◆ 文化庁の基本方針に従い、新たに始めた活動

- ④ 未発掘資料の調査と保存状況の改善支援

重点戦略Aに従い
新たに付加
⇒プログラム3にて
報告

(再掲) 重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進
目的

文化芸術資源の継承 創造の基盤となる知的インフラの構築
手段

A 文化芸術資源と関連資料の収集・保存

B 同資料のデジタルアーカイブ化促進

C 分野横断的な整備に関する検討

(再掲) 金井：服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

1. 所蔵している服飾資料について

- ・所蔵数
- ・分類
- ・台帳作成手法

2. 自館のデータベースについて

- ・データベースの有無
- ・公開、非公開の別
- ・運用開始時期
- ・運用体制
- ・構築目的
- ・想定利用者
- ・公開資料の選定
- ・画像の取り扱い
- ・問題点

3. 横断的アーカイブについて

- ・必要性
- ・有効な検索条件
- ・データ提供側の要望

アンケート調査票（一部を抜粋）

施設名:	ご記入者氏名:	ご記入日	年	月	日
アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野					
服飾分野資料のデータベースに関する調査					
服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。…					
※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。…					
まずは、 貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB） について伺います。…					
0-1. はじめに…					
0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。…					
【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50 など）…					
0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。…					
① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部を DB としてインターネット上に公開している…					
② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するための DB であり、公開はしていない…					
③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）…					
0-3. 〈0-2 で①を選ばれた方〉公開 DB をいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。…					
① 1 件 自館で運営する DB が 1 件ある…					
② 2 件以上 自館で運営する DB の他に、他所の DB と提携しデータを提供している…					
〈提携先〈DB 名称〉: …					
0-4. 〈0-2 で①を選ばれた方〉それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。…					
【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】…					
自館 DB: …					
提携 DB: …					
0-5. 〈0-2 で②③を選ばれた方〉館蔵品 DB のインターネット上での公開を今後行なう予定はありますか。お有りでしたらそのおおよかな時期についてお教えてください。…					

(再掲) 金井：服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査結果

	DBに対する考え方	予算	重視するポイント	画像の貸出
1 公立 博物館・美術館	国有・県有財産であるため、情報公開には積極的	国や県主導でプロジェクトが始動し、予算がつけば大規模な公開DBが作れる	サイバー攻撃の標的になりやすいのでセキュリティ面を重視。クラウドでは心配	有料での貸出 (商用目的以外であれば、申請を求めない場合もある)
2 私立 博物館・美術館	収益に直結しないため、必ずしも優先順位は高くない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものがない	有料での貸出 (大事な収益)
3 大学 博物館・美術館	資料調査が不十分で公開に至らない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものがない	無償での貸出 (要申請)
4 企業 (呉服屋系)	資料調査が不十分で公開に至らない 営業活動が優先	助成金を得にくい(営利企業なので)	低予算、低負担でできるものがない	無償での貸出 (要申請)

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

1 事業化にいたる背景

I 協力館への事前アンケートとヒアリング調査

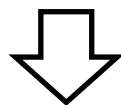
データベース整備の進捗状況

データベースの運営手法

横断的アーカイブへの期待



II 得られた情報を所内会議にて分析・検討



III 所内会議での検討過程を有識者会議にて説明

共立女子大学 長崎巖先生

十文字学園女子大学 樋口一貴先生

国立歴史民俗博物館 澤田和人先生

◆公募要領にて指示された3つ（①②③）の活動

2 アーカイブ化手法の大枠

“アーカイブ化推進のための拠点形成”のための事業

横断化そのものを進める段階にはまだない
適切な進め方の調査、検討に主眼

ゆえに

実現が容易なことと困難なことを分けることが重要

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

2アーカイブ化手法の大枠

★手法検討上の根源的な問題 資料の定義に曖昧さが残る

他館の公開 D B をほとんど使わないとの意見

理由として

資料の分類、名称が施設ごとに異なる

情報の精度がまちまち

⇒ 欲しい情報が得られない

言葉使いや情報整理の手法における共通認識が不足

訪問調査を経て感じた問題点

1. データベースに対する概念が、各館によって異なっている

- ・一般来館者向け(名品紹介)
- ・研究者向け(所蔵品の大半のデータを公開)

2. 資料の分類や名称に統一的な基準がない

- ・他館のデータベースは検索しても希望している資料を見つけられない
→他館のデータベースは使えない、使わない
- ・服飾資料の分類や名称について議論がなされていない

横断的デジタルアーカイブを構築する際に、大きな障害になる

しかし、現在使用されている分類・名称は、各博物館・美術館が培ってきた文化でもあり、簡単には変えられない

3. システムや権利関係の専門家が館内スタッフにいない、また、それについて相談する窓口もない

★ 定義の曖昧さに起因する2つの問題

① 情報整理に関わる問題

分類、名称、形状の共通理解が不足
⇒アーカイブ形式に制約

② 担当人員に関わる問題

経験ある資料管理者の作業参加が必要
⇒アーカイブ化作業時に制約

※「労働力不足」と同時に「専門家不足」という問題

★アーカイブ化手法の大枠

① 資料管理者の負担を増やさない配慮

⇒業務の省力化や、研究上の利便に繋がる仕組みを検討

② 試作版は大まかな枠組みのみを示す

⇒最初から作り込まず、実働の中で修正を加え、整えて行く

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

2アーカイブ化手法の大枠

最終目標 一般公開の横断的デジタルアーカイブ

当面の目標 限定公開の横断的デジタルアーカイブ

目的	・限定的であれ、まずは繋がる ・参加博物館・美術館の学芸員の業務効率化・研究利用促進
利用者	・参加博物館・美術館の学芸員 + 構築に携わった者
メリット	・参加館の学芸員業務における資料の貸借などの効率化に資する ・服飾研究の促進、活性化
デメリット	・完成に至るまでは、学芸員の業務負担増加
達成のために 解決しなくてはならない課題	・参加館の選定基準 ・情報管理ソフトの不統一 ・画像・データの利用ルール ・情報セキュリティをいかに高めるか ・分類、項目・名称の不統一 ・検索に必要なキーワードの選定 ・費用負担

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

2アーカイブ化手法の大枠

当面の目標 協力館間限定の横断的デジタルアーカイブ

- ①現場の意見を伺い、集約する機会を作る
- ②叩き台となる試作版を製作し使用を促す

⇒資料管理者が、試作版を介して意見し合う連携

おわりに

★ 人的ネットワーク構築の重要性
服飾分野資料の整理や評価
未整理な部分が多い
⇒施設間協働に不都合を生むことも

新たな可能性に目を向ける必要
⇒意見交換を通じた共通理解